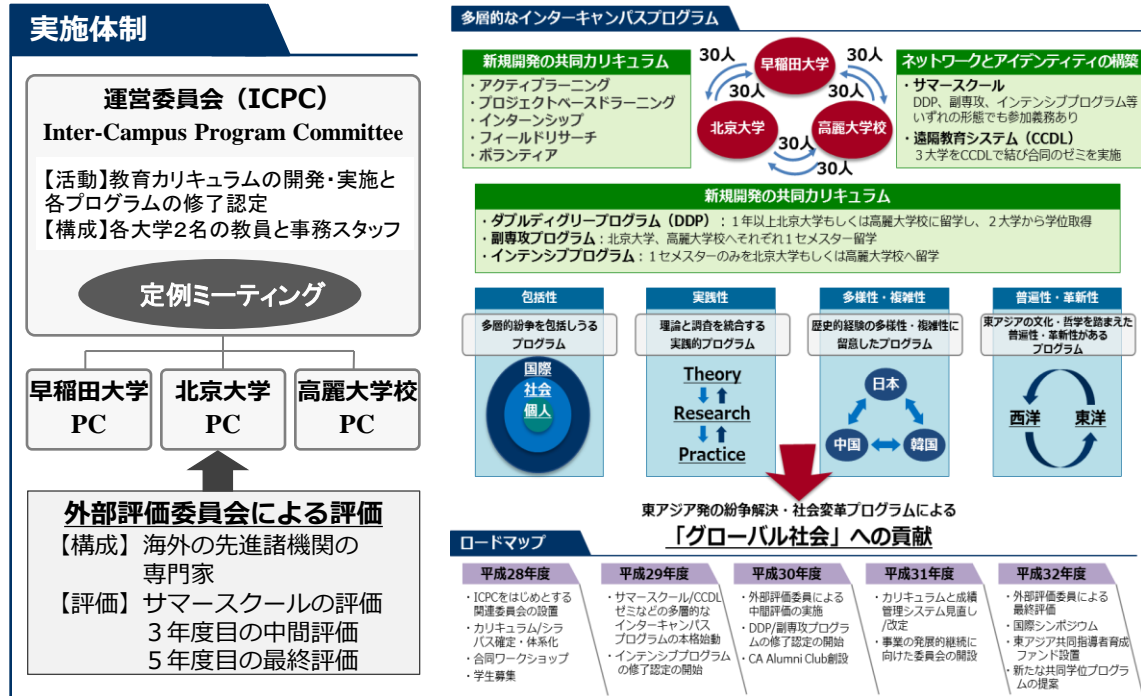


大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 早稲田大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))
 「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム」

【事業の概要】

本事業は、軍事衝突だけでなく、経済格差や差別問題、環境破壊など、国際、社会、個人など、多層的な次元で生ずるさまざまな対立や葛藤を包括する「紛争」の解決のための新たなグローバルリーダー育成プログラムである。早稲田大学・北京大学・高麗大学校の三大学は共同でアクティブラーニングやプロジェクトベースラーニング、インターンシップやフィールドリサーチなど新しい教育手法を積極的に導入し、多層的なインターキャンパスプログラムを通じて実践的な人材を育成するとともに東アジアの次世代リーダーとしてのネットワークとアイデンティティの構築を支援する。



【交流プログラムの概要】

早稲田大学、北京大学、高麗大学校の三大学は、ダブルディグリープログラム、副専攻プログラム、インテンシブプログラムのそれぞれに対して同数の学生を交換し、また合同ワークショップやサマースクール(ウインタースクール)を通じ、共同して教育カリキュラムの開発と実施にあたる。

<ダブルディグリープログラム>

協定大学のいずれかに1年間留学し、留学先大学の学位を取得する1年間の留学プログラム。

<副専攻プログラム>

協定大学にそれぞれ1セメスターずつ留学する、合わせて1年間の留学プログラム。

<インテンシブプログラム>

協定大学のいずれかに1セメスター留学する、6か月間の留学プログラム。

【本事業で養成する人材像】

社会変革力: 様々なレベルの紛争に積極的にコミットしその解決を通じて社会の変革に貢献したいという強い意欲を持つ人材。

相互理解力: 多様な意見や政治的立場、文化や歴史の差異について豊かな感受性と理解力をもつ人材。

調査分析力: 紛争が生じている現状とその理由について専門的知見とそれを調査・分析する方法論を有する人材。

実践応用力: キャンパスで学んだ知識を社会の変革に役立てていく実践的な応用力を有する人材。

【本事業の特徴】

紛争解決のための人材育成プログラムに関しては、これまで欧米の諸大学が熱心にその開発と実践に取り組んできたのに対し、日本を含む東アジアでは、いまだ十分に社会に根を張るに至っていない。本事業では、世界のあらゆる地域で発生するさまざまな紛争に対して、東アジアの歴史と文化に立脚した新しい紛争解決のためのグローバルリーダー育成プログラムを開発・実践し、人材育成を通じて紛争解決、社会変革への国際的貢献をなす。

【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 5 K 5	C 15 K 15	C 20 K 20	C 30 K 30	C 30 K 30
中国(C)での受入	J 5 K 5	J 15 K 15	J 20 K 20	J 30 K 30	J 30 K 30
韓国(K)での受入	J 5 C 5	J 15 C 15	J 20 C 20	J 30 C 30	J 30 C 30

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【早稲田大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム」

■ 交流プログラムの実施状況

事業の開始が10月31日からとなったため、実質的な交換留学プログラムの開始は平成29年度以降となった。その一方で2回のICPCにおいて3大学共同での新カリキュラムの開発・設置および交換留学プログラムについてのすり合わせを行い、学内では学生に対してキャンパス・アジアの留学プログラムに関する説明会を行った。また事業のHP、Facebook、Twitterを立ち上げ、新たな留学プログラムの広報を行った。

各大学の参加学生間での交流について協議を進め、その成果として4月19日に高麗大学校のキャンパス・アジア参加学生を日本に招き、早稲田大学のキャンパス・アジア参加学生との交流を実現した。



〈2017.4.3 キャンパス・アジア 新生向け説明会〉



〈2017.4.19 交流する日中韓の学生と大学関係者〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣
- 外国人留学生の受入

平成28年度においては、派遣・受入ともに実績はなし。

	H28
日本(J)での受入	C 0 K 0
中国(C)での受入	J 0 K 0
韓国(K)での受入	J 0 C 0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・各大学にPCを設置するとともに、三大学合同でICPC(各大学2名の教員とスタッフにより構成)を設置し、第1回を北京大学にて、第2回を遠隔会議システムを活用し実施した。平成29年度4月には早稲田大学にて第3回を実施している。
- ・先進諸機関より専門家を招聘・あるいは訪問し、外部評価委員会への就任依頼の可能性を模索した。
- ・カリキュラムとシラバスの確定を推し進めた。
- ・新しい教育手法の導入に向けた合同ワークショップを準備し、4月19日の開催に至った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業のホームページ(日本語・英語)を立ち上げ、Facebook、TwitterといったSNSと並行して日英併記で広く内外に情報を発信した。留学前の外国人学生や留学中の日本人学生もこうした情報媒体を通じて常に最新の情報にアクセスすることができ、またホームページを通じていつでも事業に関する質問をすることができる環境を整えた。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・本事業のために英語力に優れた職員を1名雇用するとともに、学部事務局・国際部・留学センターが密接に協力・連携しつつ、内部チェック機能を有する相互補完的な運営体制を構築。
- ・外部からの事業チェック機能として、外部評価委員会の立ち上げを準備。
- ・HP、Facebook、Twitterを立ち上げ、本事業の交流状況や実施するカリキュラム情報、学生の研究成果、留学体験記等を広く公開。

■ ゲッドプラクティス等

- ・新科目の開講
- ・積極的な広報活動
- ・三大学による合同ワークショップを開催
- ・キックオフシンポジウムを開催
- ・連続講演会“Waseda meets Global Leaders”を開催



〈2017.4.19 三大学合同ワークショップ〉



〈2017.4.20 キックオフシンポジウム〉